

以施仁。玉兔西山。引慈雲而布潤。

わたくしは以上列擧した例から考へて、沙州・伊州地志殘卷の「素書形像」は「素畫形像」の誤寫に相違なからうと思ふ。然らば素畫とは何かといふに、清の錢大昕は潛研堂金石跋尾續卷三に、わたくしの第二に擧げた唐太和七年の碑を青蓮寺碑の名の下に著録して碑有素畫彌勒佛之語。按說文無塑字。唐宋碑刻。或作塼。亦俗。不若作素之爲得也。

と言つてゐる。而して陶齋藏石記の著者も、わたくしの第一に擧げた北齊天統三年の造像記の跋語の中に、この錢氏の説を引用して賛意を表してゐるのである。素畫の塑像であることは殆ど疑なからう。その畫の字は彩色を施す意である。わたくしが第三に擧げた李府君修功德記に「初坏土塗施布錯彩」とあるのは、そのことを尤も能く物語つてゐると思ふ。

注

- ① 小川博士還曆記念史學地理學論叢
 ② 史學雜誌第三十五編第十一號。但し博士はこの沙州・伊州地志殘卷を毎時も誤つてペリオ氏發見の沙州都督府圖經として取扱はれてゐる。

③ 同上第三十九編第六號

④ 同上第四號

⑤ 劍峰遺草

⑥ 慈恩傳卷十。いま藤田博士所引のまゝに従ふ。

(昭和十四年十一月五日東洋史談話會大會講演)

京漢線とくわんじゆん

昨日北京を出發して豫定通り旅行に出ました。色々な事故の爲め、汽車は四時間近くも遅れて石家莊に延着しました。途中保定あたりからなごやかな新正月の春日和ががらりと變つて、一面の雪景色になつたのに驚かされました。石家莊も到る所水溜りがあつて十二日に雪が降つたとのこと。今朝十時五十五分そこをたつて順徳に着きました。今日はよい天氣です。順徳は河北省南部最大の町でなか／＼立派です。事變以後道制がしかれてから冀南道公署の所在地となつてをります。日本人は一千人といはれてゐますが、六割までは半島人とのことで中でも女が特に多いさうです。時間がないので夕方薄暗くなるまで城内をあちこち見て廻りました。有名な開元二十七年の道德經幢は随分荒れてはりますが、碑で堂が造られて保存されてゐます。俗に西大寺といはれる天寧寺には元の趙孟頫の書いた碑があります。開元寺はこれに對して東大寺といはれ、唐の鐘離權の詩にもよまれてゐる所です。境内は荒れてゐますが、宋金元の碑がいくつも立つてゐます。元の世祖が何處か行幸した所の様で所謂俗語體の聖旨碑も二つありました。明日は午前中に邯鄲に向ひます。(昭和十五年二月十四日日比野丈夫)

日支事變勃發により此の製鹽事業も中止され、其後日本軍の管理下に入ったが木材、水と共に支那人の珍重する鹽が手に入らぬのに苦しんで鹽盜人が續出した由なので、鹽務管理局では鹽警を置き、取締りを行ひ一方製鹽も行はれ初めた。

運城の町に山西鹽務管理局河東分局があるが、此の廟の西には鹽警の詰所があつて、若い支那の青年が銃を持つて監視をして居る。佈告があつた。

第七號

山西鹽務管理局河東分局佈告

爲佈告事茲值春融正當鹽池工作始之除池下各商戶自應肅清閑雜人等以使工作

京漢線ところどころ(續)

○昨日彰徳に着いて夕方までに町を一巡り見てまはりました。仲々賑やかな町で城壁の中すきまのない迄に家がつまつてゐるのには感心しました。今朝は東南營街にある韓琦の祠堂をたづねました。相當に立派な廟で韓王廟といつて居ます。奥の正堂には韓琦の木像が祀つてあつて軒には光緒帝や西太后の書いた額がかゝ

進行再各歳事變各商戸内寄居逃難人民甚多茲限於三月三十壹日以前一律移出至非關鹽務人等嚴禁出入鹽池案關場產作業影響至爲重大仰爾商民人等一體週知其各凜遵勿違切切此佈

中華民國二十八年三月 日

局長

副局長

實貼中頭舖王世芳

日本文の方は寫さず家の中に入ると鹽警の分隊長李忠斌君が居たので暫く話をした。鹽警の服装は服色國防色、折襟で脚絆をつける。襟章には金の縁の中に鹽警の文字肩章は我が國の巡查の如く横につてゐます前庭の西側に碑屋ともいふべき建物があつて、かの有名な蕞錦堂記(文は歐陽脩、書は蔡襄)や宣和四年の年號のある榮事堂記などを始め大徳二年の韓魏王新廟碑その他幾つもの碑が立つてゐます。壁間には韓琦の撰並に書とある韓愷墓誌銘などが嵌め込んでありました。廟の鄰が韓琦の故宅で光緒の末年から中學校となつてゐるのが最近では軍の

つけ、鹽の文字と青エナメル塗り之星。ボタンに鹽の文字が入つて居る。右腕に腕章をつけ、これにはマークと山西鹽務管理局鹽警第一大隊第四中隊第壹壹肆號左の腕に銀金銀の三本の山型をつけ、胸に姓名を記した小布片を附けて居る。帽子は同じく國防色で、軍帽と同じ型である。この苦力は軍管理第四十工場產鹽公會鹽場工人許丙章といふ風な腕章をつけて居る。

これで廟及び鹽田の見學を終つたが、寺についての考證的な事及び鹽田に關する詳細はいづれ稿を改めての事と思つて居る。(完了) (昭和十五年三月五日記)

病院に使はれてゐます。頼んで見せて貰ひましたが中央の堂には明の彰徳府知事陳九勿の筆になる大きな畫錦堂の額がかゝつてをり前庭の兩側には狎鷗亭と觀魚軒があります。……此等の建物は乾隆四十年かに重修されたもの様です。彰徳を發つて夕方新郷に着きました。皇軍入城二週年記念日のやうに思はれます。(二月十七日新郷にて日比野)